

西暦 2025 年 4 月 24 日

人を対象とする生命科学・医学系研究に関する情報の公開について

当センターでは、下記の研究を実施しております。この研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づいて、研究対象者となられる方から同意をいただくことに代えて、情報を公開することにより実施しております。この研究に関するお問い合わせ、研究参加への拒否依頼などがありましたら、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

記

研究機関名	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター
研究課題名	片眼に抗 VEGF 抗体硝子体注射治療を受けた未熟児網膜症患者の屈折変化
研究責任者 氏名・所属部署	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター 遠藤高生・眼科
研究対象者 (研究対象者等が自身が対象者であると容易に知り得るように記載)	未熟児網膜症と診断され、2016 年～2023 年の間に抗 VEGF 抗体（アバスタチン、ルセニティス、アイリーア）硝子体注射治療を受けられた方。
研究期間	研究実施許可後～2025 年 12 月
研究目的・方法 (意義、目的、方法、試料等の二次利用等)	未熟児網膜症の治療としては、主として網膜光凝固術（レーザー治療）が行われてきましたが、治療後近視が進行しやすいという問題点があります。 抗 VEGF 治療の場合、近視の進行はあまり見られないとされていますが、ほとんどの場合、治療は両眼に行われるため本当に影響がないのか分かりにくい部分があります。 今回、片眼のみに抗 VEGF 治療を行った患者さんの屈折変化を両眼に行った患者さんのものと比較し、抗 VEGF 治療が屈折変化に対して与える影響を解析します。
研究に用いられる試料・情報の項目や種類	研究のために、新たに検査を行うことはありません。1 歳時点での調節麻痺下屈折値に加え、出生週数、出生体重、治療時の未熟児網膜症の病期などのデータを用いて屈折値に与える影響を調査します。
研究計画書などの研究関連資料の入手方法、または閲覧方法	本研究の研究対象者(等)が、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手または閲覧をご希望される場合、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護等に支障のない範囲で入手、または閲覧ができます。下記の間合せ先までご連絡ください。
個人情報の開示に係る手続き	本研究の研究対象者(等)から、個人情報の開示の求めがあった場合、保有する個人情報のうちその本人に関するものに限って、地方独立行政法人大阪府立病院機構 個人情報の取扱及び管理に関する規程に基づいて、開示手続きをとりますので、下記の間合せ先までご連絡下さい。
照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先	地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪母子医療センター 眼科 遠藤高生 〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840 電話 0725-56-1220 (代表)

絡先	
----	--